
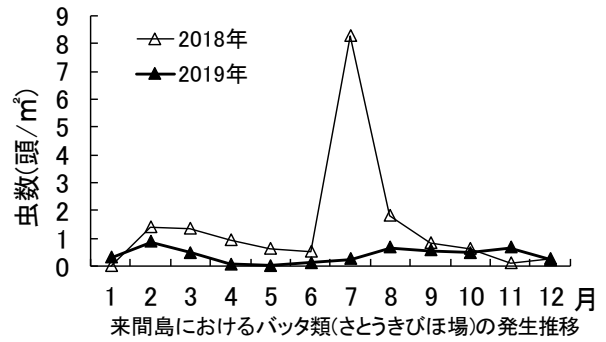
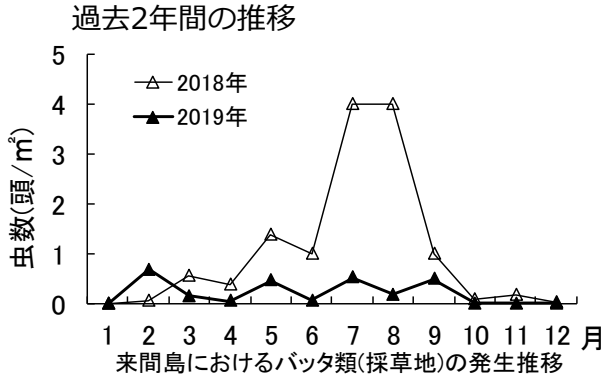
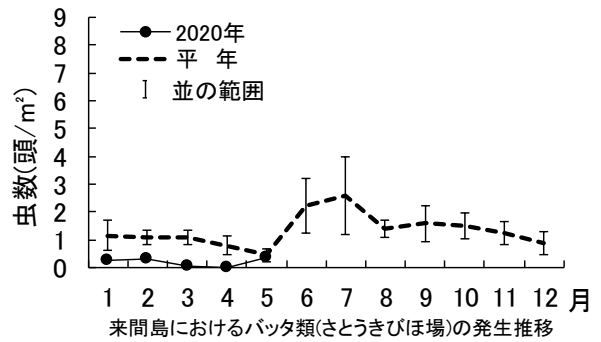
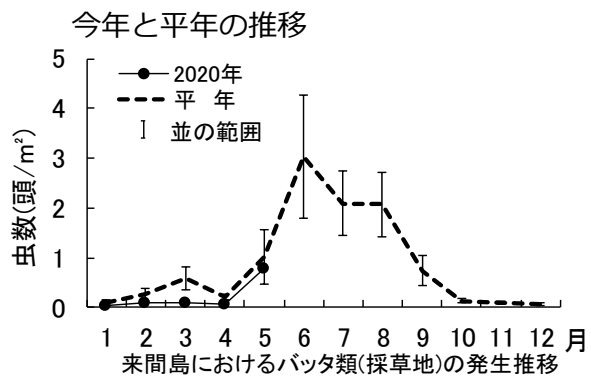


作物	さとうきび		地域	宮古群島
病害虫名	バッタ類			
予報	6 月の発生量 (平年比)	並		
	5 月からの増減傾向	↗		
予報の根拠	5 月の発生量 (平年比)	並		
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↗)		

調査結果



・発生種：タイワンツチイナゴ

防除のポイント

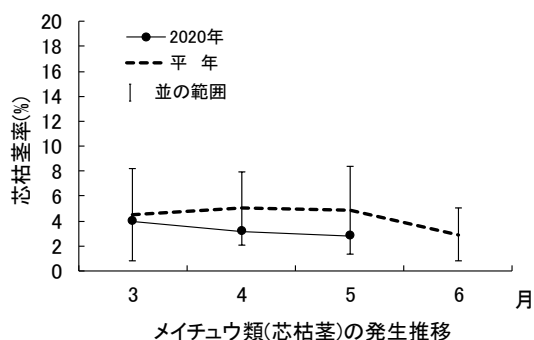
- ・発生源となるほ場及び周辺のイネ科雑草の除草を徹底する。
- ・幼虫期の防除が効果的なので、6月にほ場周辺の見回りをを行い幼虫の早期発見・防除に努める。

作物	さとうきび	地域	宮古群島
病害虫名	① メイチュウ類 (カンシャシクイハマキ)		
予報	6 月の発生量 (平年比)	並	
	5 月からの増減傾向	↓	
予報の根拠	5 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	芯枯茎率の平年の発生量の推移 (↓)	

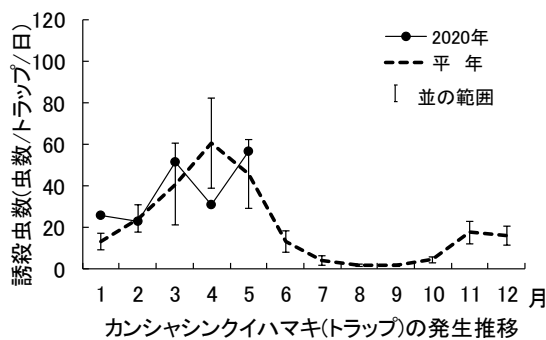


調査結果

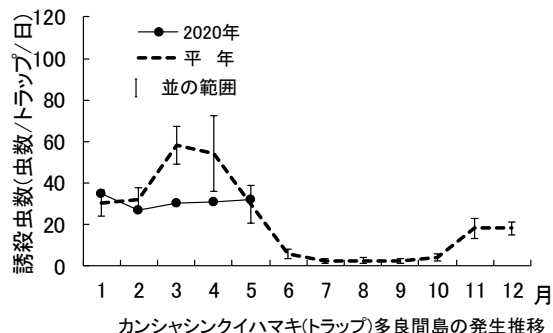
今年と平年の推移



宮古島




多良間島



- ・ 芯枯れ発生ほ場率：65.0% (平年値：78.5%)
- ・ 茎内で発見したメイチュウ類のうち、100%(10/10頭) がカンシャシクイハマキであった。

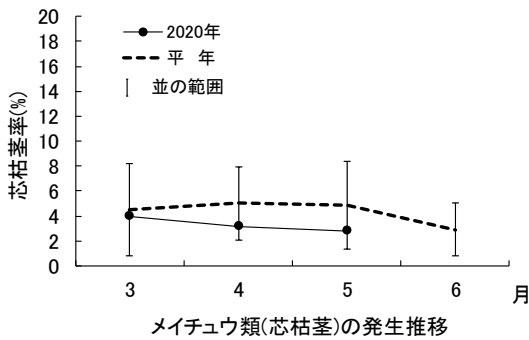
防除のポイント

- ・ ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・ 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・ 植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

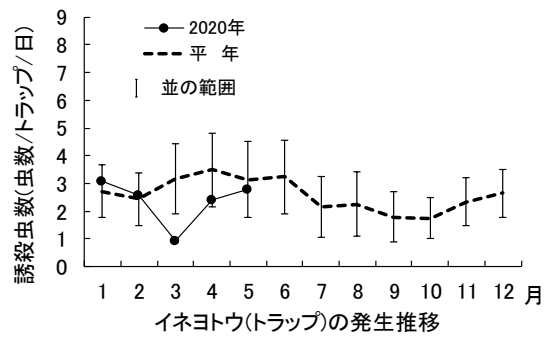
作物	さとうきび	地域	宮古群島
病害虫名	② メイチュウ類(イネヨトウ)		
予報	6 月の発生量 (平年比)	並	
	5 月からの増減傾向	↘	
予報の根拠	5 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	芯枯茎率の平年の発生量の推移 (↘)	

調査結果

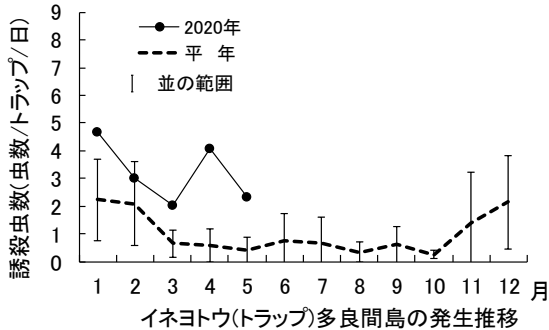
今年と平年の推移



宮古島




多良間島



- ・ 芯枯れ発生ほ場率：65.0% (平年値：78.5%)
- ・ 茎内で発見したメイチュウ類のうち、0.0%(0/10頭)がイネヨトウであった。

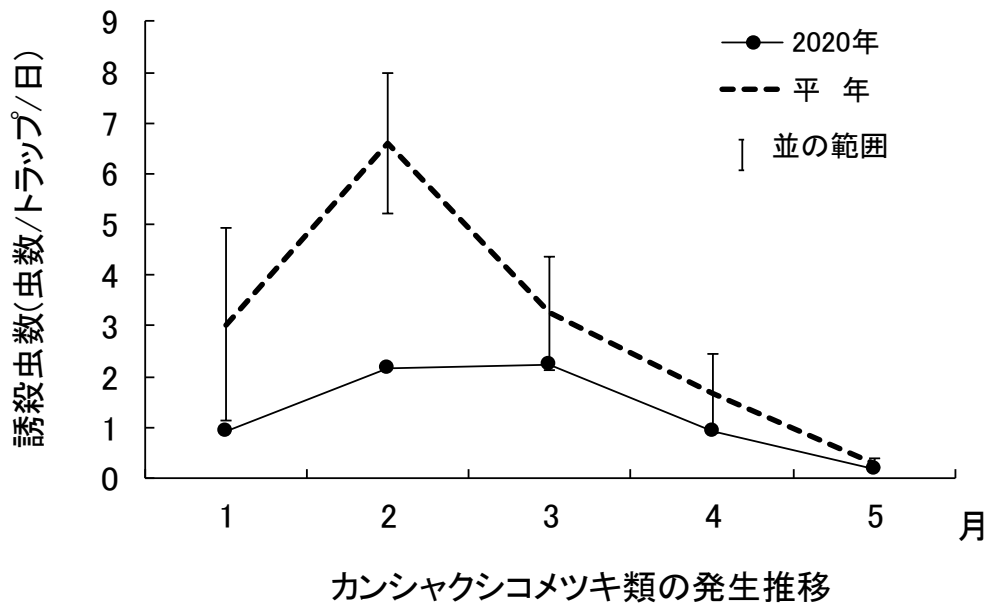
防除のポイント

- ・ ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・ 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・ 植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

作物	さとうきび	地域	宮古群島
病害虫名	サキシマカンシャクシコメツキ		
予報	6 月の発生量 (平年比)	-	
	5 月からの増減傾向	-	
予報の根拠	5 月の発生量 (平年比)	-	
	その他 (気象要因など)		

調査結果

今年と平年の推移



防除のポイント



カンシャクシコメツキ類(成虫)